

ある男の述懐

福岡市博多区 安河内 鉄也

(聞き書き 栗秋 和子)

平成7年1月17日午前5時45分、淡路島、神戸、大阪と広範囲に亘る阪神大震災起る。死者1400名を超え、家屋倒壊、火災発生と被害甚大。

連日、テレビに写し出される惨状を見ていた男性が一人、私に話し始める。

「一度はみんなこんな目に遭って見たがよかですよ。こんな状況を見ても私はいっこうに怖いことはありません。焼け跡を見よりますと、あの時のことを思い出します。あの時の方がよっぽど辛かったですよ。あの時、私は18才ですよ。

姫路の小高い丘の上にある海軍航空基地におります時のことでした。

『あれは日本の飛行機ではない』と音で判断しました。後でわかったことですが、あれがロッキードでした。グーと飛行機が低空して、上に上がる時に、私達は安心しよりましたら、尻からバラバラッと玉を落としよりますとよ。始めて見ましたなあ、尻から玉が出て来ますとよ。

バラバラッと機銃掃射が当たって、松の木が途中からボキッと折れました。私は松の木の間に逃げ回りましたよ。そしたら友達が、『残念だあー』と言ってキリキリ舞いして苦しんで死んでいきました。私は松の木の陰で見よるだけで、どうすることも出来まっしえんでした。本当に申し訳なかことでした。卑怯者ですなあ私は。死んでいった男の気持ちを思うと辛かですよ。誰でも自分の生きることしか考えまっしえんもんね。その後、賽銭箱が置いてあるお堂に逃げ込みました。そこにはじいさんとばあさんが避難して来ていました。じいさんの足にガラスの破片がささって、ばあさんが泣きよりました。タオルを裂いて太腿と足首を縛って、止血だけしてそのまま私はそこを出ました。私は本当に卑怯者ですたい。姫路の山の上の航空基地の中に地下が掘ってあって通信室がありました。危険を感じてそこに逃げ込もうとしましたら、入口に立っている兵隊さんに『ここに入ったらいかん！！』とすごい剣幕で怒られました。山から走り下りて防空壕に入ろうとして後を見ましたら、空中で落ちた玉が、電信柱の高さの所で破裂して屋根を突き抜けよりました。

姫路の小学校に兵隊がおるのを偵察したらしく、小学校にグラマン機銃掃射しよりました。20cm位の玉が屋根を突き抜けて講堂に1m位の高さに積んでいた毛布の半分位の深さまで突き当たりました。

終戦を知ったのは、姫路の松林の所で昼ごはんを食べよりました時、天気の良い日でしたなあ。

『天皇陛下の放送があります』

ということで、弁当をほっぽり出して、走って農家に行きました。一番後で聞きましたけん、な一んも聞こえんやったけど、最後の『終戦』という言葉だけがわかりました。

『あー、これで帰れる』と思うと嬉しかったですなあー。本当に嬉しかったです。鹿児島島の友達は喜んで喜んで走って行って土手を跳び越えきらんで、足の骨を折って一緒に帰って来られまっしえんでした。

戦争が終って倉庫に行きますと、まあ何やかや、いっぱいありました。兵隊の時のごはんは、白米ばかりですもん。お金もあんまり使うことはなかですけん、持ち帰りました。

奈良から姫路に転勤して終戦でっしょう。

転勤手当は、給料の3倍、1ヶ月の給料が29円でした。その3倍だから、90円近くありました。1200円持ち帰って1000円を母に渡しました。そりゃ喜びましたよ。『ありがとう』と言ってすぐ米を買いに行きましたなあ。田舎やけん、米はあると思って持って帰りまっしえんでした。200円は石鹼箱に隠しとりました。でも、すぐ妹に見つけられてしまっして、結局それも親にやりましたたい。

帰って来る時、まあ持てるだけ持って来ました。地下足袋、カンパン、石鹼、毛布を何枚も。カンパンも普通のではないとですよ。航空兵の非常食ですけん、10cm位あり厚みもありますとよ。それを1食に3枚食べて水を飲むと腹が膨れますでっしょ。誰も帰って来るなんて思っ取りまっしえんけん、行きの分だけの食料を積んで飛んで行った若者がいっぱいいるとですよ。私は乗らずにすみましてばってん。訓練の時、一人飛行機のエンジンがかからず、上官からエーライ、怒鳴られよう訓練生がおりました。見よるだけでも辛かったですなあ。

現在、こげな体で働けんし、母親に『こんな苦しい目に合うなら、あの時、戦死しとった方が親孝行でしたな』と言いましたら、『なんば言いよっとなあ』と怒られました。

母親は86才で元気にしとります。妹と一緒に住んでいて炊事やらしよるそうです。

お母さんがいるお陰で、こげな身体でも、自殺出来ずに生きとります」

現在、身体障害者1級、歩行器にて移動。

聞き書き手 ホームヘルパー 栗秋和子